

## 令和6年度 多治見市民病院指定管理者評価委員会議事録

- 【日時】 令和6年7月22日(月) 13:25～14:50
- 【場所】 多治見市役所 駅北庁舎 4階第3会議室
- 【出席者】 山田 敬一 委員長(東濃保健所長)  
尾関 恵一 委員(多治見市監査委員)  
鈴木 直樹 委員(市民代表)  
鈴木 亜紀子 委員(市民代表)  
(市民病院)  
院長 今井裕一、参与 古川雅典、事務長 池田達也  
(事務局)  
市民健康部長 伊藤香代、保健センター所長 谷口知子(進行)、  
保健センター(大畑幸二、後藤紀男)

### 【次第】

- 委員紹介、事務局紹介
- 市民健康部長あいさつ
- 委員長により開会
- 傍聴人有無の確認  
傍聴人無し
- 会議の成立確認  
全員出席により成立
- 事務局から評価シートの見方、評価の定義等の説明

### 【議事概要】

(事務局)

～資料1について説明～

#### 1 診療について

(委員) 市民病院の尽力もあり、研修医が来てくれていることから、何とか整形外科に医師の確保・維持をお願いしたい。小児科も常勤の医師が少ない。どのように考えているのか。

(市民病院) 診療科によって、強弱がある。整形外科と乳腺外科で病院全体の収入の20%程度を占めていた。整形外科の医師が一気に4名減る事例が発生。令和6年4月には大学より2名の医師に来てもらっている。看護師も含めて職員の数は一時的に減ったが、現在は質的に改善している。

(委員) 診療科で医師の確保にばらつきがあるように思う。医師が不足している診療科については、引き続き尽力していただきたい。

(委員長) 市民病院でしっかり対応していただいていると理解した。常勤医師は令和5年度末で36名だったが、令和6年4月からは42名と増えている。岐阜県内に保健所は7か所あるが、6名の医師しかいない。なかなか医師を確

保することは難しい。

(市民病院) 研修医が1学年4人で2学年8人で、8時30分から9時まで、キャリアドクターとどのように対応したのかなど院長も入って毎日カンファレンスを行っている。8月号の広報たじみで特集記事として掲載している。

(委員) 3項目の入院診療について、手術数が目標に満たなかった。逆に耳鼻咽喉科では手術数が多くなっている。何か工夫されたのか。

(市民病院) 令和5年10月より大学の医師に常勤で来ていただき、熱心に手術をしていただいた結果である。

(委員) 常勤医師数の正常な基準となる指針があれば、評価しやすい。常勤医師数36名が多いのか少ないのか評価の基準がわからない。

(委員) 年度の初めに常勤医師39名、非常勤医師55名と目標をたてている。36名であれば、目標に達していないから△ということになる。

(委員長) 年度の事業計画としては常勤医師は39名としており、この数字だけを見ると△ということである。

(委員) 外来は伸びている。入院について、コロナ禍では入院患者の受け入れで国から補助金が出て、それはそれでよかったと思うが、75床が空いているのは経営上よくない。一定数の入院患者はいるため、市民病院に入院してもらえるようにしてほしい。

(委員長) 入院診療は△とする。安全管理に基づく医療の提供は保健所の立場からもしっかり対応できていると思うので○でよいかと思う。

(事務局)

【評価の確認】 基本的医療機能△、外来診療○、入院診療△、安全管理・医療倫理○

## 2 政策的医療について

(委員) 不採算事業を公立病院でやってもらうために、市から政策的医療交付金を受けている。救急医療については、幸いに多治見市には市民病院があるので救急車は搬送先を迷わなくても搬送できていると思う。小児医療は常勤医師が1名しかいない。市民病院に行けば子どもが助かるようにしてほしい。

(委員) トリアージ訓練は年に何回行っているのか。

(市民病院) 防災訓練も兼ねて、年に2回実施。

(委員) 災害でパニックになっているときに、優先的に治療を行う人を決める必要があるが、特殊な訓練を要する。

(市民病院) 今救急にいる医師は、これまでそういった経験もしてきている。

(委員) 幸い多治見市は災害が少ないが、災害時に対応できるように訓練しておいていただきたい。

(市民病院) 災害支援ナースも3名いる。

(市民病院) 能登半島地震の際は、ナースをいち早く派遣した。

(委員長) 救急医療を含め、断らない医療を続けていただいております。市民にとっては心強いと思う。

(委員) 昨年の評価委員会でも小児科常勤医師の確保をお願いした。今年も小児科常勤医師が1名となっている。手だてはうっているのか。常勤医師1名の中で、どのように小児医療サービスを提供しているのか教えていただきたい。

(市民病院) 大学などにアプローチしている。大学側が派遣できるような体制になっていないと医師はまわせない。派遣できるように努力していただいているが、いつになるかはわからない。小児科の入院については、コロナになって肺炎など病気になる子どもが少なくなっている。県立多治見病院は出産があり、新生児でカウントになるが、小児科単独の入院は少ないと思われる。入院の患者が少ないので、開業医で対応できていると思う。小学校の健診で検尿は多治見市が一番チェックしていると思うが、治療が必要なのか、全員を確認しており、そういったシステムがあるのは県内でも少ないと思う。県内で小児科の腎臓の専門医は2名しかいなく、その1人は市民病院の医師である。その意味で、市民病院でできることに特化して、多治見市に貢献できていると思う。

(委員長) 日本は予防接種の種類が少なく、昔はロタなどで入院数が多かったが、予防接種が進んだおかげで減少し、そういった面もあるのではないかと思う。

(委員) 保健衛生事業の予防医学について、もう少しPRを進めてはいかがか。

(委員長) 広報などでPRされていると思う。

(市民病院) 健診は年度単位で動いている。特に5月から9月にかけて多く、職員は対応で忙しいが、11月以降は少なくなる。国などの補助金制度による影響が大きいと思う。運転免許の更新のように、誕生日の前後に受けてもらえるようにすれば平準化できると考える。

(委員) ぜひそのように平準化を進めてほしい。

(所長) 年度で事業を行っており、またがん検診なども国などから補助金をもらうこともあり、難しい。子宮がんや乳がんは10月から12月まで延長したが、12月までが限度と思われる。

(市民病院) 国の制度が年度単位で動いているため、そのしわ寄せがきていると思う。

(部長) 補助金の仕組みもあるが、調整できる部分もあり、対応できるよう連携していきたい。

(委員長) 名古屋市は政令市であり、県からの補助など影響が少ないため、誕生日で行っている。市民にはよいことだと思うので、ぜひお願いしたい。

委員会の評価については、救急医療は実数が増えており○とし、小児医療は外来数は増えているが入院数は減っているので△とする。リハビリテーション医療は、リハビリ全体では増加していることから○とする。保健衛生事業については、対応していただいていることから○とする。

(事務局)

【評価の確認】 救急医療○、小児医療△、リハビリテーション医療○、保健衛生事業○、災害時医療○

### 3 地域医療連携・施設等の維持管理

(委員) 紹介率は30%程度であるが、これは低いと考えるのか。

(委員長) 市民病院は紹介状がなくても特別料金はとってみえないので、市民にとっては敷居が低く、心強いと思う。紹介率の目標値は35.1%になっているが、30%程度でもよい数字であると思う。

(市民病院) 市民病院にかかる際に紹介状がなくても、開業医で紹介状を取ってきてもらうことはしていない。その中での30%程度であり、直近の数値では40%程度となっている。

(委員長) 委員会の評価は、地域医療機関との連携等は目標として数値が出ているので、それを下回っていることから△とする。市民参加の促進は、たくさん事業を実施していただいているので○とする。市の施策協力、介護保険事業等高齢福祉の協力も○とする。施設等の維持管理も、維持管理に努めていただいていることから○とする。

(事務局)

【評価の確認】 地域医療機関との連携等△、市民参加の促進○、市の施策協力○、介護保険事業等高齢福祉の協力○、施設等の維持管理○

### 4 その他について

(委員) 令和5年度事業報告書では、黒字を確保しており、努力していただいている。不採算部門をやっていただいている。政策的医療負担金の1億7,000万円を除いても黒字になる。コロナウイルス感染症に係る交付金があるとしてもいい数値だと思う。

(市民病院) 昨年に医師の退職、収入も減るなど、本来は赤字になるところ、支出を切り詰めるなど職員が一丸となって努力した結果である。

(委員長) コロナ禍の際は、市民病院でも受け入れていただき、保健所としても感謝している。市民の安心・安全を確保していただいていると思う。

(委員) 今年、市民病院を受診した際に研修医の方にお世話になった。いろいろな話を引き出してくれて、聞いてくださり、とても素敵な対応をしていただいた。医師と同様に看護師などの方も患者に対して、上手に対応できるような環境ができていると思った。

(委員長) そのほかに質問・意見はないか。

(委員) 特になし

(委員長) これをもって閉会とする。(14:50 終了)